

焼物ワーキング部会の検討状況

令和 7 年 3 月



1. 令和6年度の焼物WG部会における検討スケジュール

・ 令和6年度、焼物WG部会における主な検討内容は、下記の通りである。

会議名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
焼物 工程	龍頭棟飾	陶土型起こし												
		素焼き・施釉・本焼成												
						陶片仮組み								
								GRC一体成形						
	鬼瓦	製作手法の検討				手捻り造形								
								素焼き						
										施釉(詳細検討含む)				
										本焼き				
												GRC塗布での陶片と一体成形		
焼物WG部会					⑨7/1									1回
焼物WG部会 に係る 調査・監修等				●6/3 陶土・釉薬の監修			●9/18 鬼瓦造形監修		●11/7,11/22 鬼瓦造形監修		●1/17 鬼瓦色味監修			適時 実施
									●12/10 鬼瓦造形監修	●12/17 鬼瓦色味監修				
									●11/29 龍頭棟飾(唐破風)仮組造形監修					
							●9/30 龍頭棟飾(大棟)仮組造形監修					●2/5 龍頭棟飾 鬚角度監修		

開催日	会議名等	主な検討内容
6/3	監修	・ 【監修】 釉薬及び陶土配合比の承認
7/1	第9回 WG部会	・ 釉薬及び鬼瓦の製作工程の変更について
9月～	監修	・ 【監修】 鬼瓦（阿形・吽形）及び龍頭棟飾の監修を必要に応じて適宜実施

2. 製作物別の進捗状況（概要）

- 焼物WG部会における製作物別の進捗状況は下表の通りである。

番号	製作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
1	龍頭棟飾（大棟）	令和7年4月頃	高精細化の古写真による造形修正	段階的に引渡し中
2	龍頭棟飾（唐破風）正面（胴体含む）	令和7年4月頃	高精細化の古写真による造形修正	段階的に引渡し中
3	降棟 鬼瓦	令和7年4月頃	高精細化の古写真による造形修正	GRC塗布中

【国への引渡し方法】

- 7月開催の第9回焼物WG部会では、製作物別の引渡し方法は、次の通りとなることを確認した。
龍頭棟飾：令和6年10月末以降に引渡し開始（仮組した各陶片を段階的に引渡し）
降棟鬼瓦：令和6年12月末以降に引渡し開始（GRC塗布して引渡し、龍頭棟飾の合間を予定）
- 具体的な引渡時期や方法は、城郭内の状況等（引渡し後の保管場所の確保等の可否を含め）を考慮し、適宜、国と調整を詰めていく。

3. 【焼物WG部会】龍頭棟飾の製作(外觀形状復元)の進捗状況

- 造形は、今回高精細化された鎌倉古写真(大正11年撮影)をもとに、下地型(110%サイズ)の製作時に、大棟2回、唐破風3回の監修を行った。
- 下地型の上に重ねて石膏凹型を製作し、それを裏返して陶土を叩きこむ「陶土型起こし」の作業を実施。その後、石膏凹型から離型した陶片は、型抜きを考慮し下地型で甘くしていた箇所への彫込み、内側に裏足の形状を付ける等しつつ、水分調整を適切に行い乾燥を進め、素焼き・施釉・焼成を実施。
- 釉薬は、県産原料を主体に用いることとし、色味は鬼瓦とも整合性を持たせた。
- 令和6年8月より、陶片を複数個組み合わせるの仮組を順次進めつつ、個々の陶片の微調整を行いながら、陶片等の引渡しを順次行っている。(唐破風・大棟の吡形は引渡し済)



▲龍頭棟飾(大棟) 下地型 ※阿吡形共通



▲陶土型起こし(角部)



▲龍頭棟飾(唐破風) 仮組状況

石膏原型
製作
(1/5)

下地型
製作
(110%程度・
発泡スチロール)

石膏凹型
製作
(型取り)

陶土
パーツ別
型起こし
(内側貼付・離型
・加工・乾燥)

素焼き

施釉

焼成

陶片調整
(仮組含む)

GRC一体成形
屋根骨組との
固結・接合
避雷導体調整

4. 【焼物WG部会】 鬼瓦の製作(外觀形状復元)の進捗状況

- 鬼瓦の造形は、今回高精細化された鎌倉古写真(大正11年撮影)をもとに、阿吽形とも見直しが必要のため、原型を再作成することとし、粘土原型の段階で3回の監修を行い、石膏原型を製作。
- 鬼瓦の陶土は、令和5年にうるま市内にて確認された“石川白土”の活用を見据え陶土開発を行い、石川白土と谷茶土(恩納村産)の配合を基本に、釉薬は一部を伝統釉で県産原料主体とすることとした。
- 平成復元と同様の成形方法だと、ひび割れの発生等が確認され、分割成形で作業を進めることとなった。
- 令和6年8月より手びねりによる造形作業を開始し、12月より施釉・焼成作業を開始し、大型の上下分割で多種釉薬のため、濃度調整や施釉手順やマスキング、温度管理等の詳細を検討した。
- 令和7年1月からGRC塗布を開始し、鬼瓦の年度内の引渡しに向け作業を行っている。



▲素焼き後の状況(吽形)



▲焼成後の釉薬発色等の監修状況(阿形)



▲GRC塗布の状況(阿形下部)

粘土原型
製作

石膏原型等
製作
(110%)

手びねり成形
(内側加工・乾燥)

素
焼
き

施
釉

焼
成

G R C 塗布
での陶片と
一体成形

赤瓦上での
固定・据付